

森六ホールディングス株式会社
2018年3月期 決算説明会質疑応答要旨
2018年5月30日開催

Q.2019年3月期は営業利益の減益を見込んでいるが、その主な理由を教えてください。

A.主な理由として、樹脂加工製品事業における北米での新機種の量産等にかかる費用増加が、第1四半期まで残ること、中国における主要顧客のSUV減産があげられます。

Q.現在の樹脂加工製品事業における主要顧客は本田技研工業(株)であるが、中長期的な視点でその他の顧客との取引をいつまでに、どのくらい拡大していくか教えてください。

A.現状、本田技研工業(株)以外のお客さまに対して、いつまでに、どのくらい拡大していくといった公表できる数値はございません。2017年5月よりメキシコ工場でVolkswagen向けに自動車用樹脂内装部品の量産を開始し、同社向けの新しい部品の受注も決定しています。当社は開発から量産までの一貫体制が強みですが、収益の計上まで一定の時間を要します。まずは主要顧客のご要望にしっかり対応しながら、Volkswagenを中心にその他のお客さまの取引を拡大してまいります。

Q.2018年3月期の設備投資について、前期比35億円減少し91億円となりましたが、その理由について教えてください。また、今後の設備投資計画について教えてください。

A.2018年3月期の設備投資が前期に比べて減少したのは、近年の大型投資が一巡したことが理由であります。今後は主な設備投資として、樹脂加工製品事業にて主要顧客対応のため、メキシコ工場の増築・拡張で18億円（上場時の手取金を充当）、ケミカル事業では医療用機能フィルムを新製法で製造するための新工場建設に30億円の投資を計画しております。また、自動車用樹脂製品の生産工場におけるロボット導入など、自動化・省人化を推進するために20億円の手取金を充当いたします。設備投資については、出来るだけ償却範囲内で収めていきたいと考えております。

Q.2019年3月期の設備投資額・減価償却費・研究開発費の見込みを教えてください。

A.2019年3月期の設備投資額は100億円前後、減価償却費は75億円、研究開発費は25億円程を見込んでおります。設備投資額につきましては、2020年3月期も100億円程と考えております。

Q.2018年3月期の樹脂加工製品事業において、米国での新機種量産等の費用の増加があったとしていますが、具体的な影響額と内容について教えてください。

A.米国において新機種の自動車樹脂部品を複数受注し、従来品の補用パーツも増加しており、負荷が高まり土日生産が増えるとともに、人材の入れ替わりに伴う一時的な品質の低下により、2018年

3月期は10億円のコスト増加がありました。2019年3月期にも影響が残りますが、一過性であり第2四半期以降は回復すると見込んでおります。

Q.自動車部品の軽量化ニーズに向けた取り組みとして、テールゲート（バックドア）を樹脂化した実績はありますか。

A.テールゲートの樹脂化については、研究・開発段階は終了し、お客さまにご提案しております。軽量化に向けて、車体そのものの樹脂化に取り組んでおります。

Q.為替感応度について2018年3月期実績と2019年3月期予想を教えてください。また、2019年3月期のUSドル以外の主要通貨の想定為替レートを教えてください。

A. USドルが円換算で1円上下した場合の為替感応度は、2018年3月期が売上高で14億円、営業利益で1億円となっております。2019年3月期の想定為替レートは1USドル=100.00円としておりますが、その他の主要通貨では1元=16.20円、1パーツ=3.30円としております。2019年3月期は売上高で7億円、営業利益で0.5億円を見込んでおります。

Q.自動車部品の樹脂化について、他社との差別化や実用化に向けたスケジュールを教えてください。

A.お客さまあってのことですので、実用化に向けた具体的なスケジュールはご回答できませんが、当社の樹脂化の流れとしましては、テールゲートの後は、ボンネット、ガラスなど車両の軽量化に向けてボディそのものを樹脂化できるよう研究・開発を行ってまいります。

Q.Volkswagenは御社をどのように評価されているのか教えてください。また、製品の受注単価について、本田技研工業(株)との違いはありますか。

A.Volkswagenは、本田技研工業(株)のTier1（一次サプライヤー）である当社の製品に興味を持っていただき、最初は米国での取引がありましたが、同社のメキシコ進出に伴い取引が拡大いたしました。受注単価につきましては、車種や製品により異なりますので単純に比較することが出来ません。

Q.2019年3月期のセグメント別営業利益予想が資料に記載されておりませんが、具体的な数値を教えてください。

A.2018年3月期の営業利益について、樹脂加工製品事業が占める割合は85%となっております。2019年3月期のセグメント別営業利益予想は記載しておりませんが、その構成比は同程度と考えていただければと思います。

以上